

1 学期保護者会 校長あいさつ（放送）

保護者のみなさま、こんにちは。本校校長の田村です。日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力をいただいていることに改めまして感謝申し上げます。

はじめに今年度も避けては通れない、新型コロナウイルス関連の話をしてします。

今年度は、昨年度とは少し違い、学校は4月からスタートしました。本校では、感染症の防止策を十分に講じ、これまでの教育活動を1から見直しました。生徒や保護者の皆様の感覚では、この1学期の間に、体育祭を行い、部活動の大会を行ったことから、「もう学校は、なんとか元通りの活動ができる」とお思いの方もいるかもしれませんが、しかし、実はそんなに簡単なことではありません。生徒の学校生活の根幹をなすもの、それは日々の授業です。実はこの授業が、リスクの回避を考慮に入れた活動を強いられ、まだまだ大変窮屈な思いをしているのです。たとえば音楽の授業、これは何と言っても様々な歌を歌うものですが、音楽室という教室より少しだけ大きいだけの部屋で40人が発声することで大変大きなリスクが生じると、教育委員会のガイドラインには記載されています。家庭科の調理実習、保健体育のプール、各教科の一定以上の時間で行うペアや班での活動など、まだまだ新型コロナウイルス発生以前の学習の取り組みはできていないのが現状です。この状況は当分の期間続くと思われまます。私は学校行事ではなく、このことが一番の問題であり、悲しい。人間とは時間が経つと自然と意識のハードルが低くなりがちです。熱中症の季節になると、マスクより熱中症。小学生が亡くなるとマスクを外すことを求める声も高まります。しかし、本当にそれでよいのでしょうか。学校でもシクラスターが発生し、マスクをしていなかったとしたらどういう展開になるのでしょうか。飯沼中学校は、教育委員会等のガイドラインより若干強いルールを敷きます。今後も学校内では原則、マスクは常時着用します。例外は給食時と強度の高い運動を行い、がまんができないほど呼吸が上がったり、熱中症の危険を感じたりするようなときです。これは、教師の判断及び生徒個々の判断の両面で行われますが、その日ごとの個人の体調や体力に左右される極めて個人的な条件でもありますので、学校のルールだけではなく、個人の体調管理と判断にも委ねます。保健体育の授業でも、運動部の活動でも、外す必要のある状況は、教員及び生徒自身で判断し、その時は距離を置いて外すよう指導しています。また逆に、マスクを外すことに抵抗を感じる生徒も一定の割合でいます。このような生徒に対しても、活動内容と自分の体調等、その時その場の状況を判断し、外さないことも可という指導をしています。お子様の命をご家庭から預かっているのですから、安易な一律のルールではなく、一定のラインを学校が示し、例外も認めるというスタンスです。ご家庭におかれましても、中学生として、きちんと自分の体調を判断して行動するよう御指導ください。

ここ最近、ワクチンが普及し始めたところではございますが、効果のほどはよくわからず、加えて現在、第5波が押し寄せ始めていると報道されています。東京では、4度目の緊急事態宣言が発令され、埼玉や大阪では、まん延防止等重点措置も延長されました。変異株は感染力が強く、小学生でも後遺症が生じるとの記事も読みました。東京に勤務する知人の話では、人の数は、ほとんどコロナ前の状況に戻っているとのことですし、今月のオリンピックにより、さらに数は増えるかもしれません。

2学期は、3年生の修学旅行、運動部の新人戦、合唱祭などたくさんの行事がありますが、どうなるか全くわかりません。公教育の場として修学旅行に行くこと、それは家族で旅行に行ったり、実家に帰省したりすることとは違います。公教育の場で合唱の授業や合唱祭を行うということ、それは家族や友人とカラオケに行くのとは次元が違います。最終的な判断は校長の私の責任の下に行いますが、判断を間違わないよう、社会情勢をよく鑑み、教育委員会、学校医等の意見を参考にしながら進めて参ります。修学旅行につきましては、このあと体育館に説明に上がります。新型コロナウイルス関連の最後として、お願いをします。それは、本人はもちろんですが、ご家族をも含め、体調不良により医療機関にかかった場合、その多くはPCR検査を実施すると思われまます。このような場合は、一刻も早く学校に連絡をいただきたい。学校はすぐに教育委員会や学校医に報告し、休校等の措置について検討をします。連絡が遅くなったことにより、学校行事そのものが中止になることを避けるためにも、ご協力のほどお願い申し上げます。

さて、1学期がもう間もなく終わります。1学期の生徒の様子でございますが、学習面につきましては、先ほども述べました通り、限られた学習活動ではございますが、生徒達はよく授業に臨み、がんばっていました。ただそこに、「やらされている感」がどうしても見えます。「分かるって面白い」「もっと知りたい」と思い、自ら学びに向かうようになれば、学力は間違いなく上がります。「宿題が出てからやらなきゃ」とか、「今日は塾の日だから行かなきゃ」と思っているうちは、学力の向上はさほど望めません。自分の中学時代を思い出すと、社会や理科の講義調のつまらない授業など聞かずに、資料集をひたすら楽しんで読んでいたものです。本校の教員は、手前味噌で恐縮ですが、皆、なかなかいい授業をします。毎日校内をふらふら回って見ていてそう思います。学ぶ側がしっかりと臨めば学力は必ず上がる授業だと思えます。

先日期末テストが返却されたと思います。また、通知表も間もなくです。子供は結果に一喜一憂するものです。ですから、親が大きく構え、これまでの取り組みがどうであったのか、そして結果を受け、今後どうするのかを子供と共に考え、親子、家族で共通理解を図り、今後の生活や学習に活かしてもらえればと思います。

次に、生活についてです。子供たちは、私達が思っている以上に、ネット社会の恩

恵を受けると同時に、その性質ゆえの気遣いでストレスを感じていることに気がついて
いるでしょうか。まず、認識していただきたいこととして、買い与えているのは誰
なのかということ。一義的な責任はどこにあるのかを考えてください。よく使う例と
して、刃物を思い浮かべてください。包丁をはじめ、刃物は毎日使いますね。とても
便利です。食卓に包丁がなければ、困ります。生活の中でカッターやハサミがなけれ
ば困ります。しかし、使い方を間違えれば、指を切り、痛い思いをします。最悪の場
合、殺人事件の凶器にも使われます。しかし、だからと言って、包丁を作っている業
者、販売している業者に文句を言う人はいません。携帯電話も同じです。なかった
ときはそれなりに生活していたものですが、今となっては、この便利さ、有効性は決し
て手放せるものではありません。しかし、大人と違い、子供たちは子供たちの世界
で、様々なレベルのつながりがあり、「すぐに返信しないと嫌われちゃう、仲間外れ
になってしまう」などの気を遣い、ストレスを感じているのです。また、我々大人が
したら罰せられるようなことをすることもありますし、先日は、ネットが関与してい
るからこそ、性に関わる指導を行ったこともありました。本校のホームページ内に
あるブログを読んでいる方はご存知だと思いますが、他にもいくつもありました。全
て載せていたらそんなことばかりのブログになってしまうので、すべて載せてはいま
せんが、約370人の中学生がいる本校では、そんなことばかりです。ですので、私
達教職員は、経験上、驚きもしませんし、冷静に対処することができます。しかし、
トラブルを起こしてしまった本人やその保護者は、それなりの大きなダメージを受け
るのが普通です。そこで、保護者の皆様に改めて認識してほしいこととして、まず、
買い与えているのですから、一義的な責任は家庭にあるということがあげられます。
ですから、家庭の中で、どのような使い方をしなければならぬかをきちんと膝を突
き合わせて、確認をしてください。人をからかった内容や悪口を送信しない、人の画
像を面白おかしくやりとりしない、すぐに既読にならなかつたり、返信がなかつたり
したからといって、気分を害すること自体が間違っていることなどです。このよう
なことを指導せず、フィルタリングもかけていない状況で、友達とトラブルった、みな
から悪口を言われた、仲間外れにされた、違法なサイトを閲覧し不正請求が来るよ
うな事態になった、などが起こると、自分の子は被害者というスタンスから抜けられ
ず、加害者や時には学校に苦情を言ってきたりすることも少なくありません。学校は
繰り返し何度も指導をしてきましたし、もちろん今後も指導します。また、困った事
態になったときの相談にも乗ります。これからの時代は、学校と家庭が協力して指導
していかなければ解決することができないことが多いのです。一緒にやっていきまし
ょう。もうすぐ夏休みに入ります、まず御家庭で子供と携帯やゲームの使い方の約束
をしっかりと確認してください。

若い者達にとって、夏休みはドキドキ・ワクワクの熱い季節です。勉強に打ち込む
夏、部活動に打ち込む夏、恋をする夏…どんな夏にするのかは、その人次第です。引

引き続き私は、生徒達への授業としてブログなどを通して、彼らの生き方を啓発していきます。ブログを見るか見ないか、気にとめるかとめないか、何かを感じるか感じないかもその人次第。それは、徹底を前提とする「指導」や生きる力を総合的に高める「教育」とは違う意味合いを持つものであると私は考えます。発信された「情報」を内観としてどう受け止めるかは、その人の感性や魂に関わること。だから、教室で行う授業とは違い、その言葉を投げ掛けたことの「結果」を求めてはならないと思っています。9月に成長した生徒達に会うのを楽しみにしています。1学期、大変お世話になりました。このあと、学年や学級の担当より話があります。どうぞよろしくお願いいたします。

令和3年7月9日 春日部市立飯沼中学校長